

66-1 金町小合溜の変遷を知って、しばられ地蔵と水元公園（距離約 10.0km）



水元公園

【街歩きの概要】

金町といえば、葛飾柴又訪問の際に JR 駅を南へ出るのがお決まりだが、今回は北口へ出て、水元公園へと足を向ける。水元公園は、春は桜、梅雨どきは花菖蒲など四季折々の草花が楽しめる区内最大の公園である。水元公園葛飾菖蒲まつり（2011 年は、6 月 1～20 日）のころには、約 80 種 1 万 4000 株もの花菖蒲が咲き誇る。その金町水元公園周辺の河川流路の変遷を地図で確かめながら歩く。

地図豆知識：水元公園と小合溜

水元公園は、明治百年事業、東京百年事業として用地を取得し、整備を行なった。

園内の一部を構成する「小合溜（こあいだめ）」は、古い歴史を持つ遊水地である。公園は約 82 ヘクタールという都内でも屈指の広さを持ち、唯一の水郷風景を持ち、四季折々の美しい自然景観が楽しめる公園。釣り、ポプラ並木、メタセコイアの森、水生植物園、花菖蒲園、バードサンクチュアリーなどがあり、一日では遊びきれない。

小合溜（あるいは小合溜井）を整備した井澤弥惣兵衛（1654？-1738）は、紀伊那賀郡（現海南市）の豪農の家に生まれ、徳川光貞に見いだされて勘定方となり、その後紀州藩主徳川吉宗の命を受けて紀ノ川流域の新田開発を手がけた。吉宗が八代将軍として江戸城に入り新田開発を奨励するに及んで、紀州藩士から幕臣となっていた井澤弥惣兵衛に、見沼代用水の開削及び周辺地域の干拓を命じた。

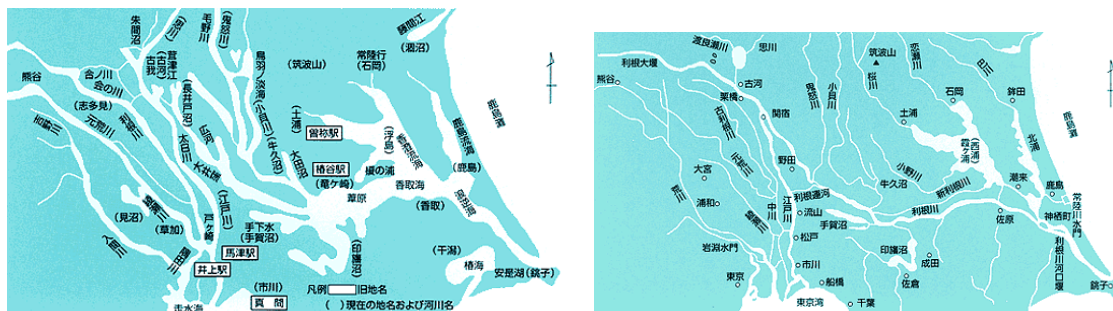


小合溜（あるいは小合溜井）を整備した井澤弥惣兵衛（1654?–1738）は、紀伊那賀郡（現海南市）の豪農の家に生まれ、徳川光貞に見いだされて勘定方となり、その後紀州藩主徳川吉宗の命を受けて紀ノ川流域の新田開発を手がけた。吉宗が八代将軍として江戸城に入り新田開発を奨励するに及んで、紀州藩士から幕臣となっていた井澤弥惣兵衛に、見沼代用水の開削及び周辺地域の干拓を命じた。

1728（享保 13）年に着手した見沼代用水事業では、水盛りと呼ばれる水準測量、新水路と旧来河川を立体交差させる「伏越（ふせごし：サイフォンの原理）」、さらに船の自由航行が必要な個所などでは「懸樋（かけひ）」が使用され、「紀州流」と呼ばれる優れた土木工事と測量技術が力を発揮した。中でも、見沼通船堀（国指定史跡）は、享保 16 年（1731）に井澤によって作られた日本最古の閘門（こうもん）式運河である。

その後井澤弥惣兵衛は中川を開削し、旧古利根川の一部である当地を閉じて小合溜を完成させ（1729）、同所に遊水と用水の機能を持たせた。用水は、江戸川の水を溜井に引き入れて下流の灌漑に利用した（上下之（かみしもの）割用水、上之割：葛飾地域、下之割：江戸川地域）。

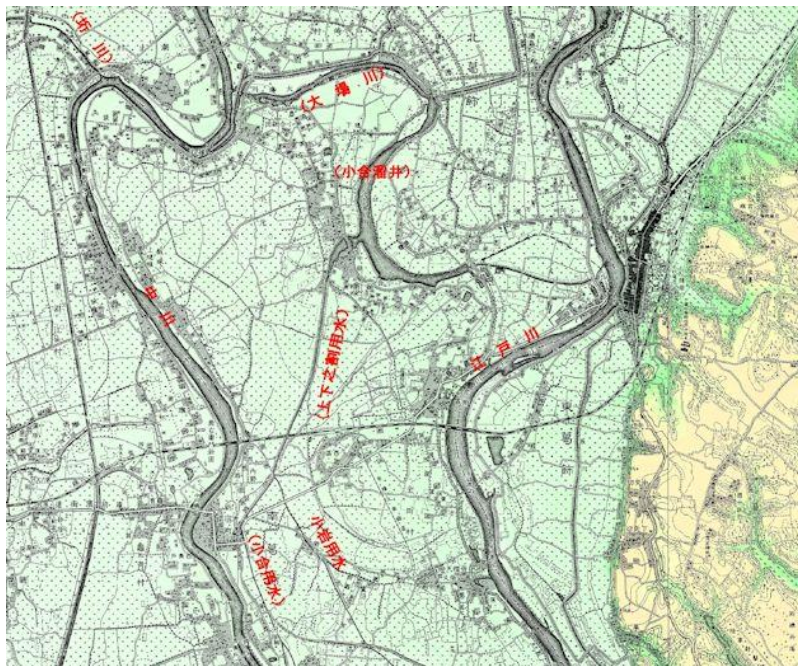
中川の開削では、川幅を拡張し散在する池沼を連ねたので、中川の七曲りのような形となった。「水元」の地名は、この小合溜の水が葛飾や江戸川地域の水田を潤したことに由来する。



利根川水系約 1000 年前の流れ 利根川水系現在の流れ



昭和の初めの小合溜



小合溜と用水 (m42)



現在の小合溜

地図豆知識：小合溜の未定境界

封建時代に限らず、国界の位置が山稜や河川などの自然地形によって区切られることは、戦略上のことから当然の成り行きである。明治期以降の県界や市町村界の多くも、これら封建時代の界を引き継いで、自然地形に沿う形で決められてきたはずである。

ところが、河川流路は洪水や河川改修工事なども含めて時々刻々変化するから、曖昧なものになりやすい。さらに、境界となる水部などは入会として、あいまいなままとしておくこともある。こうした領地界がグレイゾーンの地では、敵対する二つの領主から税金徴収されないよう、双方に半分ずつ税を納めるの「半手」という仕組みもあった。

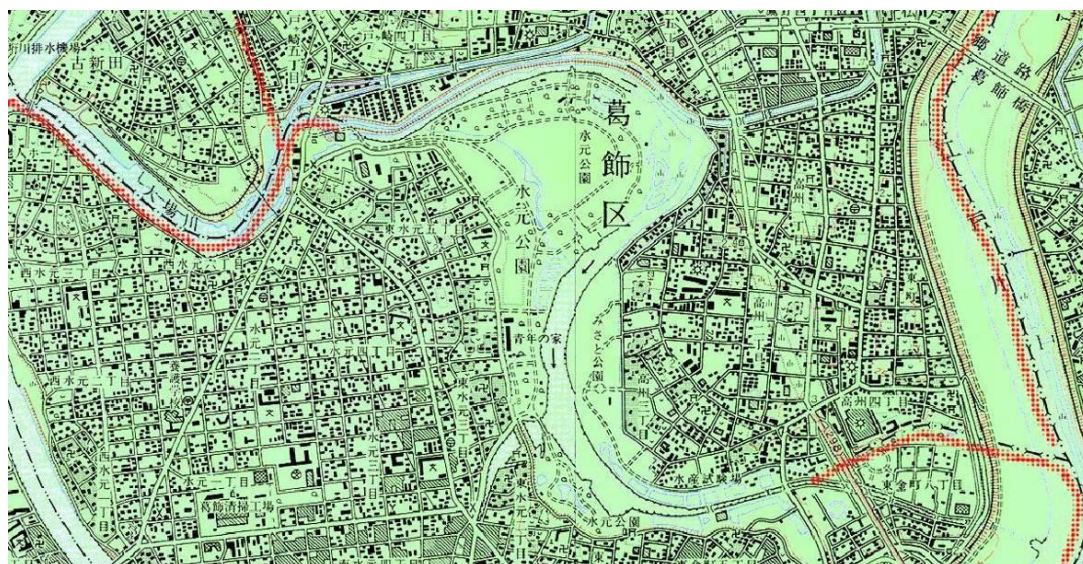
東京都と埼玉県の間にある小合溜の周辺には、今も都県境が未確定な区間がある。

治水のことで対立の激しい地域なのであえて境界を曖昧なままにしていたともいわれている。

現在まで埼玉県三郷市は、元々河川だった水面なので一般的な河川と同様に溜井の中央が行政界であると主張。一方東京都葛飾区は、小合溜は葛西領の灌漑用水溜井で古文書にも「葛西領」という記述があることを根拠に小合溜の北の水際（三郷市側）が行政界であると主張し、折り合いがつかない。

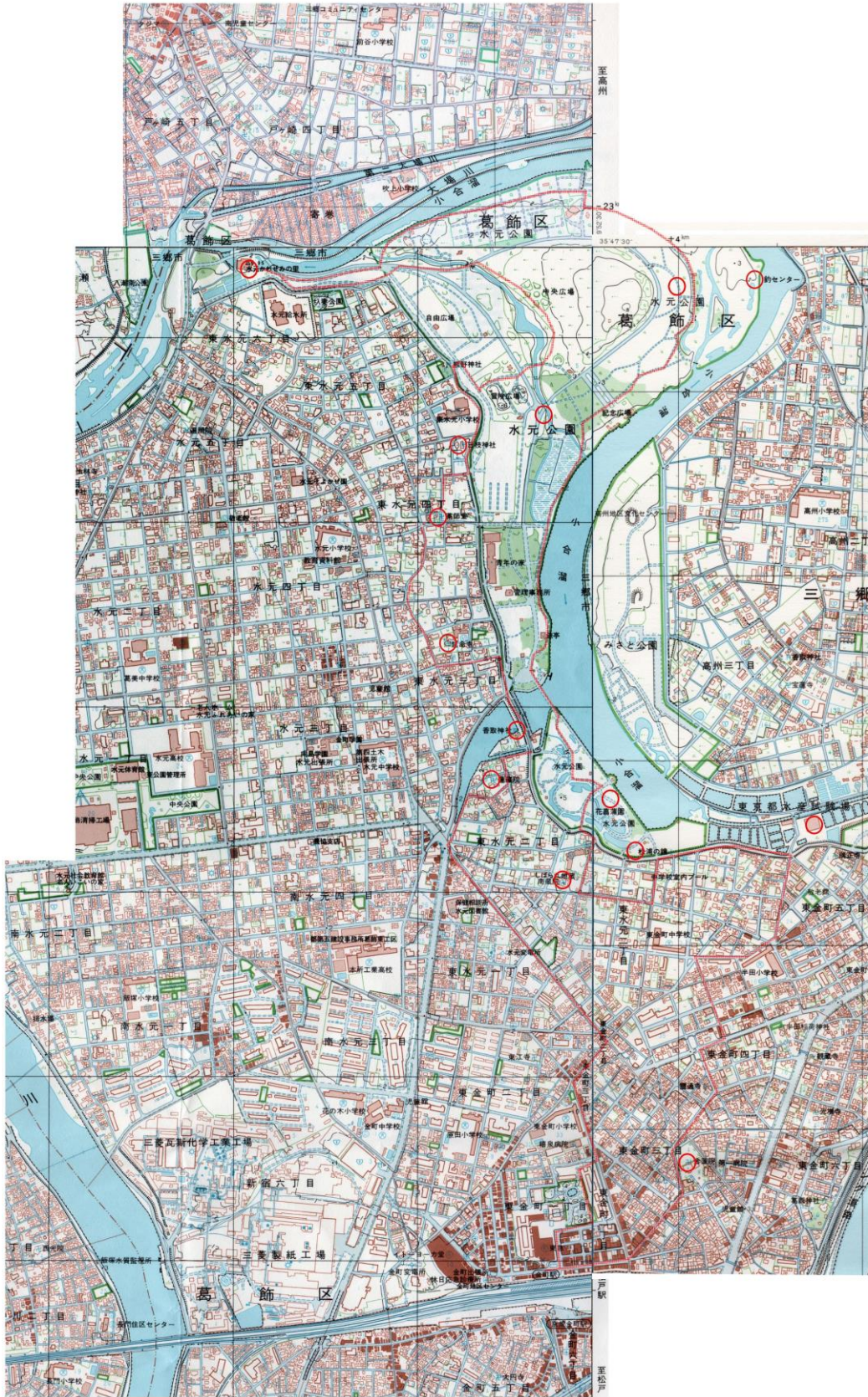
そして、実質的な水面の管理は、三郷市と葛飾区の間で締結された管理協定により支障なく行われている。ところが、2005（平成 17）年、管理主体の不明確な小合溜と大場川の背割堤（いわゆる中堤）が陥没するという事態が生じた。その復旧と中堤の管理について両者間で協議が行われ、堤に都県の暫定管理境界を置き、標杭が設置され、その上流を埼玉県が、下流を東京都が管理しているという。

国土地理院の「全国都道府県市区町村別面積調」における葛飾区及び埼玉県三郷市は、「境界の一部が未定のため、合計面積を示した」と注記されて、「葛飾区の面積は、都・特別区部の合計には含まれない」とある。



小合溜の未定境界（赤色は境界が決定している部分）

ルートマップ



【道順】

JR 金町駅→金蓮院→半田稻荷神社→葛飾区金魚展示場→南蔵院（しばられ地蔵）→梵鐘（松浦の鐘）→水元さくら堤→09 水元大橋→小合溜→ポプラ並木→水元公園記念広場とメタセコイアの森→バードサンクチュアリー観察舎4・5・6→水生植物園・はなしょうぶ田→中央広場・せせらぎ広場→水元公園かわせみの里→閘門橋・大場川→水元さくら堤→熊野神社・日枝神社→内溜→香取神社→JR 金町駅

【街歩き解説】

①金蓮院

境内には江戸期の愛染明王石像があり、大きな樹林の中に、樹齢約 500 年といわれる大きな羅漢槭（ラカンマキ）があることで有名。羅漢槭はマキ科に属する常緑樹で、都内でこのようなラカンマキの大樹は大変珍しく、葛飾区の天然記念物に指定されている。また、5月初旬のぼたんの花も見事だという。

②半田稻荷神社

創立から千年を超すという由緒ある稻荷様で、神社内には享保年間（1716～35）からある井戸があって、その石柵の寄進者名に新富座「守田勘彌 尾上菊五郎 市川団十郎」とある。ほかに手品屋などともあって興味深い。

③葛飾区金魚展示場

東京都水産試験場が移転の際、葛飾区が東京都から施設を譲り受けて金魚を展示飼育している。エドアカネ、エドニシキなど、24 種類の色とりどりのかわいらしい金魚が見る人の目を楽しませてくれる。



葛飾区金魚展示場の金魚としばられ地蔵

④南蔵院（しばられ地藏）

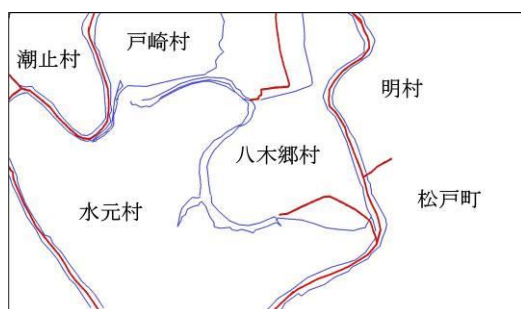
大岡越前裁きで有名な「しばられ地藏」の南蔵院は、大正12年の関東大震災で被災してから墨田区吾妻橋から移転してきた。一般には、「盗難や失せ物があると、地藏尊に縄をかけ、願いがかなうと縄をほどく」というもの。都内には、ほかに林泉寺（文京区）と願行寺（品川区）がある。後者では、①お願い事をする時、お地藏さんの首を家に持ち帰って（カポッと胴体から外れる）毎日顔に向い祈願し続ける。②願いが叶ったら持ち帰った顔を持ってお寺へ再度赴く。そして、③新しい首と借りていた首の2つをお堂に返す。

⑤梵鐘（松浦の鐘）

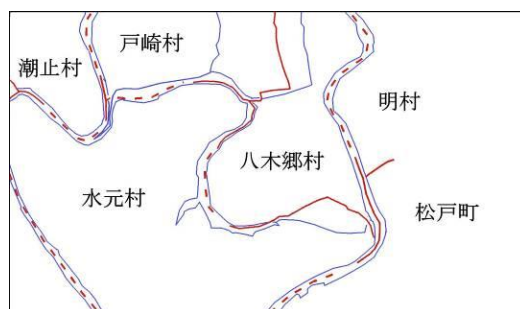
松浦と書いて「まつら」と読む。都内で唯一区が持っている鐘。長崎奉行松浦河内守信正が龍蔵寺というお寺に寄進したものだが、所有していたお寺がなくなり、村の非常時の早鐘として使用されていたという。

⑥小合溜（境界の変遷）

小合溜の境界の変遷を訊きながら、水辺の風景を眺めるのだが、じっさい向こう岸は埼玉県だから、水辺のことを抜きにすれば、何が問題なのかと考えてしまう。

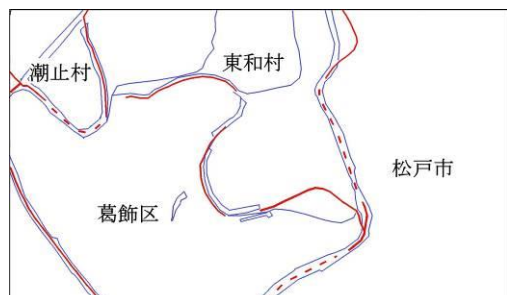


明治42年



大正6年

明治42年の地図には、小合溜に境界の記入は無いから、ほぼ現在と同じように境界が未定だったと思われる？ 大正6年の地図では、河川中心の境界は要所を除きすべて省略されている（図の破線は推定境界を補入したもの）から、詳細は不明である。



昭和20年



昭和40年

明治 20 年の地図も、大正 6 年地図を引き継いで河川内の境界は省略されている（図の破線は推定境界を補入したもの）から、河川内の境界の詳細は不明であるが、小合溜の境界は河川中心として確定しているようにも読み取れる。昭和 40 年地図では、河川内にある境界が総て明確に記載されて、確定状態にある。



平成 10 年

平成 10 年地図では、一転して小合溜の境界は未確定になった。

⑦水元さくら堤

八代将軍徳川吉宗公の治水事業の名残で、江戸川の外堤防として築かれた。桜の季節には多くの花見客で賑わう。



水元公園のポプラ並木と水元さくら堤

⑧香取神社

下小合村（江戸時代）の鎮守。6 月には茅の輪くぐり神事が行なわれる。香取社の扁額は勝海舟の書、区内随一のしだれ桜も有名。



バードサンクチュアリー

⑨メタセコイアの森からバードサンクチュアリー

水元大橋を渡り、明治 100 年を記念して整備された水元公園記念広場、木々を抜ける風がやさしいメタセコイアの森へと入り、途中で三か所あるバードサンクチュアリー野鳥観察舎をのぞくといい。メタセコイア（スギ科）は、落葉性の針葉樹。季節にもよるが、多くの野鳥を観察することができるだろう。そののちは、どこまでも広がる中央広場、水生植物園、水元公園グリーンプラザなど見どころは多い。

⑩水元かわせみの里

水元小合溜の水を浄化し、美しい水辺にするための施設。展示ルームからカワセミなどの水鳥、水生植物、魚などの観察ができる。ここにも野鳥観察舎がある。



水元かわせみの里と閘門橋

⑪閘門橋

水害防止のために明治時代（M42）に造られた美しい橋の辺りを注意深く眺めると少々の発見が期待できるだろう。レンガ造りのアーチ橋としては、都内唯一のもの。少し北に大

場川が、ずっと西には中川を隔てる新大場川水門があって、かつてはその向こうにあった綾瀬川から大場川そして小合溜（遊水地）へと流下していたのだ。

+* * *+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * *+